

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1090100288		
法人名	前橋市農業協同組合		
事業所名	JA前橋市グループホーム上陽		
所在地	群馬県前橋市中内町40-4		
自己評価作成日	10月7日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	令和4年10月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・生活の場であることを重視し、家庭的な雰囲気を大切にしている。 ・感染予防対策にも留意しており、換気や消毒なども定期的に行っている。 ・新しい生活様式を取り入れ、オンライン面会も行える環境整備を図っている。 ・コロナ禍で施設内における外部との交流は制約を設けているが、以前から交流のある高校との交流や地元長寿会からの花の貸与など地域との交流にも取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>母体(JA前橋)の活動を利用者とのつながりに活かし、「地域交流」「農作業」「職員や関係者との昔馴染み」など様々なことにつなげ、そのつながりをコロナ禍であっても活用できるよう、多くの地域関係者やボランティアとの関係性を維持する工夫を行い、動画による映像交流、屋外での演奏・交流会、長寿会との花の貸与などが行われている。また、ICTの活用にも工夫があり、職員が外出先より撮影した動画の生中継で「購入物」を利用者が決めるなどしている。運営推進会議など外部より人を集めての話し合いが難しい状況でも、様々な助言や協力を得るため「独自のアンケート」や「書面会議のまとめ」を作成し、意見や助言を運営に上手く取り入れている。同様に利用者に対しても全員が参加しての話し合いを定期的に関催し、出された希望(食事や外出イベント等)の実現に取り組まれている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入職時に理念についてのオリエンテーションを実施するなど共通理解が図れるよう取り組んでいるが、経験が増えていく中で、理念より業務優先になりがちな面も出てきている。	ケース会議や職員会議にて、毎回ではないが理念についての話をしている。開設当初に語呂合わせで作成した理念は覚えやすいが、職員ごとに個性もあり、その個性を活かしつつ理念の実践を行えるよう日々相談している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍のため、直接交流については制約があるが、長寿会から花を貸与してもらい、高校生と動画を通して交流する、芸能ボランティアから動画をいただくなど新しい生活様式も活用している。	コロナ禍前には、年100回ほどのボランティア訪問があったが、直接交流とは違った感染症対策にてできる地域とのつながりとして、動画交流や屋外演奏会、花の貸与、農作業などを行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域や薬局が開催する勉強会などに仕事として参加をしている職員がいる。介護に関する話を行うなど地域貢献ができるよう取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍では書面開催となっているが、施設だよりを添付し、施設の活動が分かりやすく伝わるよう配慮している。アンケート用紙を同封し、参加者からの意見が反映できるよう工夫もしている。	コロナ禍にて書面開催となっているが、独自のアンケート様式や前回のまとめ、施設だよりなどを同封し様々な意見をもらいやすいよう工夫し、実際に運営に意見を反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	不明瞭な点があれば市担当部署に確認を取り、根拠に基づいた支援が実践できるよう取り組んでいる。	運営推進会議の参加が包括支援センターに交代となり、地域の情報や現場視点での助言、利用者の紹介などにつながっている。また、介護保険関係の相談や報告を通じて、市との関係も引き続き良好に保てるよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の具体的な行為を施設内に掲示するとともに、身体拘束廃止適正化委員会、身体拘束廃止に関する研修も実施し、身体拘束をすることなくケアに取り組んでいる。	内部研修や身体拘束廃止適正化委員会、虐待防止委員会を定期的に行っており、物理的な身体拘束や安易に内服に頼らない支援を日々実践している。夜間せん妄などへの対応も、職員一人での対応が難しい場合など併設している同法人運営施設に協力してもらうこともある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を定期的開催するとともに、内部研修で虐待防止に関する研修も行う、そのような行為に及ばないよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修において権利擁護に関する研修を行い、その理解と必要に応じた活用ができるよう取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	本人及び家族に契約、重要事項説明書を説明し、同意を得てからサービス提供を図っている。介護保険改定の場合も説明と同意を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者との話し合いの場を月に一度は設け、支援の中に活かせるよう取り組んでいる。運営推進会議(書面開催)においても、家族に意見を求め、運営に反映できるよう取り組んでいる。	毎月、利用者との話し合いにて「食事」「外出」「レクリエーション」などの希望を確認し、実現できるよう対応している。家族とは運営推進会議でのアンケートや面会の際に自然なやりとりで出た意見を取り入れ、避難訓練の様子を共有できるようにした。意見箱も設置している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議以外でも職員が自由に意見や提案を行える雰囲気作りにも努めており、議論を重ねる中で運営に反映させている。	毎月、運営母体の課長も参加し、管理者・職員間で業務連絡や運営に関する改善などを話し合っている。個別面談を以前は実施していたが、かしまってでは意見が出にくいいため、業務内で個別に話しかけて管理者が意見聴取を図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の勤務状況を把握し、仕事に集中できる環境整備をしてくださっている。サービス残業はほぼなく、有休も取得しやすい職場環境となっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に参加できるよう情報提供やその機会を設けてくださっており、オンライン研修も含め、受講ができる環境を整備している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者や職員から研修や交流に参加したい希望を発した時は、その機会の確保が図れるよう配慮してくださっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントや状態確認を適切に行い、本人の訴えを傾聴し、支援に活かしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメントや状態確認を適切に行い、家族の訴えも傾聴し、支援に活かしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学や相談の際に当ホームで実践している支援内容を分かりやすく説明し、万が一条件に適合しない場合などには他のサービスについても説明や情報提供を行うなど適切なケアが行えるよう取り組んでいる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用される方にとっては「家」であることを意識し、アットホームな雰囲気での共同生活が営めるよう支援に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	すべてを施設が抱えこんでしまわずに、受診対応や物品補充など家族が担える部分については協力してもらい、関係性の維持が図れるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係性が途切れないよう、支援に努めている	配慮を要する場合以外は、以前からの友人や場所との関係性が継続できるよう支援に努めている。	コロナ禍にて、直接面会やリモート面会を使い分けている。面会はテラスや玄関などで行い、リモートでは小さく見づらいため、大きな画面のTVに接続しわかるよう工夫している。家族の協力を得て行きつけのお店や馴染みの場への外出を、できる限り実現している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	人間関係は複雑で難しい面もあるが、その方が望む人間関係の構築が図れるよう日々配慮に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されてからも物品等の寄付をしてくださるご家族もいる。地域でお会いする機会があった際は挨拶を行い、互いの経過を確認するなど良好な関係を保つことができています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時、更新時や短期期間満了時等に、必ず本人に確認している。認知症等により本人の意向が確認できない場合には、ご家族の意向を確認し、本人本位に検討している。	会話ができる方からは、日常生活の様子や会話で意向や意見を確認している。言語にできない方には、家族・関係者への聴き取りを主に、本人の事業所での様子も踏まえて望む生活の支援に心掛けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでのサービス利用の経過等は、入居前のアセスメントで把握するようにしている。生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境については、入居前及び入居後のアセスメントで把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	昼夜の状況を申し送りや個別の記録、自ら勤務することで現状を把握している。また月に1度のケース会議で、職員間で意見交換や情報共有を行い、現状を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居前・後とも、本人、家族、関係者の意見を反映させながら、現状に即した介護計画を作成している。	介護計画は半年毎、状態変化時に見直し、追加されている。朝夕の申し送りの際に具体的に利用者の発言や行動を細かく共有しつつ、ケアマネージャーが月1回のモニタリングを行い、その内容を元に支援方法の検討や実際の支援に活かしている。	日々の記録の内容は「利用者の反応」が少なく職員の行為が中心であるため、検討を期待したい。あわせて、毎月実施している利用者を交えての会議で出された思い・意向がケアプランに反映できることを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録に、本人の訴えや生活の様子等記載している。変化等に応じ介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診、ドライブ等の外出、買い物などご家族が行けない場合は、できる範囲で柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	感染予防対策のため、芸能ボランティアの受け入れは休止しているが、前橋市が実施している出前講座を積極的に活用している他、出張理美容、訪問診療、訪問服薬指導など活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に主治医を今までの医師のままにするかどうか相談して決めている。また必要に応じて受診に同行するなど主治医との連携を図れている。	入居時、協力医療機関による訪問診療とかかりつけ医療機関への受診継続を、家族や本人が選択できるように説明して選んでもらっている。受診・訪問診療時には、事前に事業所より必要な情報や相談を電話や手紙にて行い、受診状況は電話や面会時に家族としっかり共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療に関することは、看護師や主治医に報告し指示を仰いでいる。急変時にはマニュアルに基づき救急搬送を依頼するなど適切に取り組むことができている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際は、家族や入院先の医療職、相談員と適宜連絡を取りながら、状態の確認や入院期間の確認、退院後の諸注意の確認等連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に説明を行い、家族の理解を得ている。また、利用者の状態が悪化した際も、その都度家族に説明を行い情報の共有に努めている。	医療行為が常態化した場合などの説明を入居時に行い、入居後に状態が悪化した場合などもその都度説明を行っている。現在の施設環境では支援が難しくなる場合もあり、そういった場合は医療機関もしくは主治医、家族と相談をし、入院や医療対応可能な施設への紹介をすることもある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当について外部講師を招き習得を図っている。急変や事故等があった場合は、担当課長、管理者、ケアマネ、看護師に報告し、主治医等の指示を仰ぐ他、急を要する場合はためらわず救急搬送を依頼するようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は、日中と夜間を想定して年2回実施している。	避難訓練は毎年2回実施し、コロナの状況によるが、民生委員や消防署の協力を得て行っている。今年度は、水防訓練を11月に実施予定である。食事やオムツなどの介護用品も、備蓄している。	福祉避難所として登録をしているので、近隣住民や関係者への周知をさらに行うことで、事業所との協力体制づくりに発展されることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の尊厳に留意し、言葉遣いには注意しながら対応している。ただし、利用者の安全確保、性格や信頼関係の度合いを考慮する中で、TPOに応じた声掛けも行っている。	日々の支援にてスピーチロックを含め、プライバシーに配慮した排泄介助や入浴介助等、利用者との信頼関係に重点を置いた介護支援を心がけている。職員体制の関係もあり同性介助が難しい場合もあるが、併設施設職員の協力なども踏まえて、できる限り対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定ができるような声掛けに努めている。自己決定が困難な方については、家族の意向や以前の暮らしの情報等に基づいて、職員間で共有しながら対応している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限りのことは利用者のペースに合わせた支援を行うように取り組んでいる。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に一度、訪問理美容員が来所しており、希望される利用者の好みに応じパーマやカラーリングされる方もいる。衣服も訪問販売を適宜利用し、各々の好みの服を選んで頂いている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月に一度の利用者との話し合いにおいて食べたいものを提供するように心がけている。積極的にテーブル拭きやパーティーションの片付けを手伝ってくださっている。	利用者との会議で出された意見を参考に、食事の好みや食べたいものを調理メニューに取り入れている。手作りを心掛け、畑で収穫した野菜を材料にし、利用者にもできる範囲で協力してもらっている。また、母体のJAや農家の方より野菜の差し入れがある。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの食事量をチェックし把握していくことで、その方に合った食事量や提供方法を支援している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後行い、声掛け、介助を利用者のレベルに合わせて対応している。また、必要に応じて家族に連絡し、歯科往診していただき、助言または治療を行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	残存能力に応じ、トイレ誘導・排泄介助を行っている。排泄状況をカルテに記載し失敗を極力防ぐよう声掛け、誘導を行うように取り組んでいる。	残存能力にあった支援方法を会議で検討し、本人のそわそわしている様子や、記録を確認しての時間誘導、レクリエーションなどの活動前など本人の状況に合った対応を心掛け、できるだけ失禁を減らす、トイレで排泄できるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防にアクティビティの一環として歩行練習等を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ADLに合わせた入浴を行っている。同性介助が難しい場合があるものの、嫌がる利用者に対して声掛けをする職員を変えたり、対応する職員を変えるなど現場にて臨機応変に対応できるよう心掛けている。	入浴は利用者の状況に合わせて、週2回程度を計画して行われている。その対応は、一対一の介護としている。入浴を拒否する利用者に対しては、対応する職員を変える・日を改めるなど、個々に沿った支援をしている。また、ゆず風呂などの時期に応じた楽しめる工夫もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ADL、心身状態に応じ昼間も休息が必要な方には休んで頂けるよう声掛け、介助を行っている。眠剤等を極力使用せず、夜間良眠ができるよう、日中なるべく体を動かすように体操・散歩、レクリエーションを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の詳細について、カルテにて閲覧できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとりの性格や出来ることを理解し、施設生活において退屈しないよう職員とともに掃除をしたり、毎回同じ方ばかりにならないよう声をかけ、その様子を見たほかの利用者様も一緒に行えるように心がけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は利用者へ声をかけ近所のホームセンターの園芸コーナーや施設周辺を散歩したり、季節によっては近くの公園まで花などを見にドライブをしに行ったりしている。	利用者との会議にて出された意見を元に、スーパーへの買い物や、ドライブなどを実施している。コロナ禍にて降車はできなかったが、前橋まつりなどに最近も出かけている。外食が難しい状況のためテイクアウトを活用し、最近では釜めしを提供した。近隣への散歩やテラスでの日光浴も、適宜行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人でのお金の管理は現在のところ要望がない為取り組んでいないが、利用者個々のお金を施設で管理している為、日用品等必要な物があれば預かったお金で購入している。可能であれば一緒に買いに行くこともある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の要望に対し、その時々状況に応じ、家族と電話で話ができるよう対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った物を掲示し、季節感を取り入れられるとともに、あまり貼りすぎないようにも注意、工夫をしている。椅子だけではなくソファも使用し利用者がくつろげるようにしている。	共用スペースは居心地よく過ごせるように、整理整頓し、掲示物などにも力を入れている。利用者中心で作成した掲示物は、介護の雑誌に写真で投稿し何度か掲載され、職員・利用者ともに喜ばれている。家族や関係者の写真も多く掲示して、それが元になり話が弾んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士、共有スペースのソファや椅子に座り話をしたり、テレビ鑑賞をする時間を設けている。居室で過ごしたい方は、居室で過ごし編み物、読書をされる方もおり、安全や共同生活に配慮しつつ、極力自由に過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全性に問題がある物以外、持ち込む物に特段の制限は設けていない。利用者が使い慣れた物があればご家族と相談し持ち込みをお願いするケースもある。	備え付けのベッドとタンス以外は、安全面に問題なければ持ち込み可能であり、自宅から馴染みの家具や思い出の写真を持ち込み、居心地よい場所を作っている。家具の配置なども利用者の生活状況にて相談し、必要に応じて動かしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車いすの方、歩きの方双方が安全に生活できる配置を心掛けている。居室内も同じ配置ではなくご本人と相談し利用者が生活しやすい配置にしている。		